

日本社会科教育学会

第63回 全国研究大会（山形大会）

プログラム

期日 2013（平成25）年10月26日（土）・27日（日） ※関連行事は25日（金）
会場 山形大学小白川キャンパス（〒990-8560 山形市小白川町 1-4-12）
主催 日本社会科教育学会 日本教育大学協会社会科部門
後援 山形県教育委員会 山形市教育委員会 天童市教育委員会 上山市教育委員会
寒河江市教育委員会 山形県社会科研究会 山形市小学校教育研究会社会科部会、
山形市中学校教育研究会社会科部会

日程

第1日目 10月26日(土)

8:50	9:30	12:00	13:15	16:00	16:15	17:00	18:00	20:00
受付	自由研究発表Ⅰ	昼食 評議員会	シンポジウム		総会		懇親会 ホテル キャッスル	

第2日目 10月27日(日)

8:30	9:00	12:00	13:00	15:30
受付	自由研究発表Ⅱ	昼食	課題研究	

関連行事

授業公開 10月25日(金) 会場：山形大学附属中学校

(JR山形駅から県庁前行バス乗車、「附属学校前」下車)

13:00 受付

13:30-14:15 山形大学附属小学校 5年 西長大教諭

内容 「これからの食料生産-これからの米作りのあり方を考える-」

14:35-15:25 山形大学附属中学校 3年 関東朋之教諭

内容 「農家緊急家族会議-弟を説得せよ」(26日シンポジウム提案授業)

15:40-17:10 研究協議会

日本社会科教育学会第63回全国研究大会（山形大会）事務局

〒990-8560 山形市小白川町 1-4-12 山形大学地域教育文化学部

(江間史明・高吉嬉・野口徹)

電話：023-628-4390（江間研究室） メールアドレス：jass63yamagata@gmail.com

第1日目 2013年10月26日

自由研究発表Ⅰ 9:30-12:00

自由研究Ⅰ—第1分科会

211教室 (2号館1階)

司会者 東京学芸大学 加藤 公明
帝京大学 野口 剛

- (1) 地理歴史科教師の歴史教育観の特徴とその形成要因
—教師のライフストーリーの聴き取りを通して—
筑波大学大学院 村井 大介
- (2) 絵画資料から見た江戸時代のキリスト教弾圧
—初期洋風画の教材化に関する一考察—
二松學舎大学附属柏中・高等学校 鈴木 慎也
- (3) 1枚の写真をもとに、歴史のなぞにせまる「世界遺産学習」
—平城京のなぞを追う—
奈良女子大学附属中等教育学校 北尾 悟
- (4) 世界遺産の視点を組み込んだ文化学習の展開
—「武家の古都・鎌倉」をめぐる動きの教材化を通して—
清和大学 小松 伸之
- (5) 世界遺産学習
—世界遺産登録によって発生した社会的ジレンマを中心に—
広島大学附属中・高等学校 藤原 隆範

自由研究Ⅰ—第2分科会

212教室 (2号館1階)

司会者 上越教育大学 茨木 智志
武蔵野大学 佐藤 公

- (1) 歴史的思考力の育成を目指す高等学校地理歴史科・専門学科・特別活動の融合による実践例
—トマト・シヨクヨウダイオウ (ルバーブ) の伝播から俯瞰した歴史像の叙述—
東京都立農業高等学校 大木 匡尚
- (2) 世界史授業における言語活動の取り組みと評価方法
—ワークシートを活用した事例—
秋田県立花輪高等学校 佐藤 和行
- (3) 領土問題を高校生に授業する—尖閣諸島・北方領土—
北海道北見柏陽高等学校 齊藤 満幸
- (4) 「海洋」の授業を構想する(2)
—院生による授業構想と(模擬)授業の実践—
新潟大学教育学部 宮 蘭 衛 新潟大学大学院 新田 亮輝
新潟大学大学院 塚本 剛 新潟大学大学院 大滝 徳久
- (5) 社会参画に基づく授業による学習者の変容について
—「カンボジア」協同ゼミ参加者の変容—
茨城県立取手第一高等学校 大滝 修

自由研究Ⅰ－第3分科会

213教室（2号館1階）

司会者

広島大学 池野 範男
埼玉大学 桐谷 正信

- (1) ディプロマチック・センス育成を念頭に置いた小学校社会科食文化学習
－フランスとドイツを中心に－

岩国市教育委員会 松村 淳

- (2) アメリカ合衆国における探究型歴史学習の構造と可能性
－SHEG“RLHプロジェクト”を事例として－

筑波大学大学院 渡部 裕哉

- (3) 歴史的に探究するコミュニティの論理と意義
－K.バートンとL.レブスティックの歴史学習論に着目して－

元・三重県立四日市四郷高等学校 中村 洋樹

- (4) 米国における世界史教育の実践
－AP世界史授業の参与観察を通して－

岐阜工業高等専門学校 空 健太

- (5) 「歴史的コンピテンス」の育成を図る歴史教育の導入単元
－ドイツの事例－

山梨大学 服部 一秀

自由研究Ⅰ－第4分科会

214教室（2号館1階）

司会者

大正大学 館 潤二
桐蔭横浜大学 谷田部玲生

- (1) 中学校社会科における金融・消費者教育の授業改善に関する実証的研究
－行動経済学の知見を手がかりとして－

信州大学 田村 徳至

- (2) 税のしくみから社会を捉える社会科授業の開発研究
－「租税の意義と役割」、「納税の義務」に焦点を当てて－

愛知教育大学 真島 聖子

- (3) 国の累積債務1000兆円時代における財政の教育
－税に対する生徒の知識・意識の調査結果を中心に－

三重大学 山根 栄次 日本体育大学 猪瀬 武則

東洋大学 栗原 久 山梨大学 服部 一秀

名古屋女子大学 宮原 悟

- (4) ビジネスゲームにおける思考の拡散と収斂
－多層市場モデルゲームにおけるプレイヤーの販売戦略－

長崎大学 福田 正弘

- (5) 命を守るエネルギー資源教育(3)
－原発問題の授業構想：「歴史・地理的考察」編－

秋田大学 井門 正美

自由研究Ⅰ－第5分科会

121教室（1号館2階）

司会者

京都教育大学 水山 光春
東京学芸大学 渡部 竜也

(1) エネルギー環境教育における社会的態度のあり方に関する研究

－小学校中学年社会科の実践－

板橋区立中台小学校	石原 淳	原子力安全システム研究所	大磯 眞一
東京学芸大学名誉教授	佐島 群巳	練馬区立向山小学校	鈴木 真
京都教育大学名誉教授	高山 博之	国立学園小学校	束原 秀郎
仙台白百合女子大学	中村 俊哉	前さいたま市立指扇小学校	野口 芳江
原子力安全システム研究所	橋場 隆	京都教育大学	山下 宏文

(2) 政治的リテラシーを涵養する市民の学習

お茶の水女子大学附属小学校 岡田 泰孝

(3) 価値判断する子どもを育てる社会科学習

－学校のまわりの様子の学習を通して－

筑波大学附属小学校 梅澤 眞一

(4) 社会科教育を確かな軌道に乗せるために

－社会科教育の目的としての「公民」を中心に－

熊本大学名誉教授 宮本 光雄

(5) 社会的相互行為の中の知識

－中学校社会科授業における学習者のナラティブから－

佐賀大学 佐長 健司

自由研究Ⅰ－第6分科会

124教室（1号館2階）

司会者

国士舘大学 北 俊夫
北海道教育大学札幌校 田山 修三

(1) 地域の自然を生かしたくらし

－わたしたちの県の実践から－

坂出市立瀬居小学校 河野 富男

(2) 郷土の歴史学習における児童の情報活用思考の分析と歴史意識に関する考察

名古屋市立野田小学校 松本 卓也

(3) 教員養成教育における日本地理かるた（都道府県かるた）の活用

－小教専「社会」を主に－

群馬大学名誉教授	山口 幸男	神戸女子大学	佐藤 浩樹
岡山商科大学	今井 英文	白鷗大学	原口美貴子

(4) 体験と言語を結び付ける社会科の授業づくり

－シミュレーションゲームによる問題設定場面の授業開発を通して－

大阪教育大学附属平野小学校 丸野 亨

(5) 入門期における社会科学習の課題とあり方

－身近な地域の学習の意義と重要性－

神戸女子大学 佐藤 浩樹

自由研究Ⅰ－第7分科会

125教室（1号館2階）

司会者 帝京大学 鎌田 和宏
宮城教育大学 吉田 剛

(1) 社会科におけるネットリテラシー教育の構想

秋田大学大学院 鮎川 博晃
秋田大学大学院 田島 駿己
秋田大学大学院 本間 隆造

(2) 社会科教育におけるタブレット端末の活用に関する研究

秋田大学大学院 鈴木 智彦

(3) 小学校社会科における実感的な学び(3)－高学年の実践事例を元に－

東京学芸大学附属小金井小学校 根本 徹

(4) 児童が主体的に社会に関わろうとする社会科学習のあり方

－社会参画「子どもが創る 防災フェスタ」を取り入れた「私たちの暮らしと防災」の一実践－

鴨川市立鴨川小学校 粕谷 昌良

(5) 防災教育と中学校社会科の連携と授業モデルの検討

名取市立閑上中学校 宮本 静子

自由研究Ⅰ－第8分科会

126教室（1号館2階）

司会者 埼玉大学 大友 秀明
川崎医療短期大学 中原 朋生

(1) 社会科における民主主義と立憲主義

－中学校社会科学習指導要領公民的分野の検討－

川崎市立野川中学校 大坂 誠

(2) 憲法問題の教材化について

－長沼ナイキ基地訴訟の裁判闘争を例に－

北海道教育大学 前田 輪音

(3) 法教育における立憲主義の実践研究

－立憲主義をふまえた法教育の現代的意義と課題－

厚木市立東名中学校 中平 一義

(4) 法教育 －私法分野の私事性と公共性－

南足柄市立岡本中学校 村上 揚

(5) 法現象の構造をふまえた法教育の課題

－播磨・長谷川らの所説を参考に－

活水女子大学 渡邊 弘

司会者

鳴門教育大学 西村 公孝

上越教育大学 山本 友和

- (1) 小学校社会科歴史学習における「琉球王国」の単元開発研究

東大阪市立縄手東小学校 澁谷 友和

奈良教育大学 岩本 廣美

- (2) 多民族学習としての小学校歴史学習

－第6学年「飛鳥・奈良時代」の単元開発を事例に－

川崎市立稲田小学校 太田 満

- (3) 社会科教員志望学生と留学生は合同授業を通して何を学ぶか

－学生・留学生・教員の語りから－

山口大学 南浦 涼介

山口大学 永井 涼子

- (4) 小学校低学年期の合科・総合的学習の国際比較と実態調査研究(1)

日本と中国の合科・総合の授業検討

－北京市・精誠小学校と長野県・伊那小学校の授業実践を中心に－

京都橘大学 倉持 祐二

北海道教育大学 前田 賢次

京都華頂大学 木全 清博

- (5) 日韓両国における少子高齢・人口減少の進行と社会科教育の課題(4)

－小（初等）学校教科書比較－

静岡大学 馬居 政幸

韓国公州大学校 李 明熙

ソウル市立ソンパ初等学校 崔 松姫

静岡大学大学院 山田万里奈

※ 司会のお名前は、五十音順に記載しています。

※ 大学院重点化による大学院大学の所属につきましては、大学院との区別をはっきりさせるために便宜上大学名で記載させていただきました。

昼食 12:00－13:15

評議員会 12:00－13:15

111教室（1号館1階）

※評議員、幹事のみなさまはご参集ください。

社会問題を学習に埋め込む授業のあり方を問う

—日本の農業に焦点をあてて—

[趣旨説明]

農業は、食という自分たちの暮らしと、貿易という世界とのつながりの両面に密接にかかわる領域である。学習者は、自分の口にするものと、日本のありようと、世界とのつながりを考えざるをえない。だが、これからの日本の農業のビジョンは、錯綜している。何が問題かを見定め、議論をていねいにかみあわせていくことは、容易ではない。

日本の農業は、戦後日本の経済成長に適応する形で展開してきた。大多数の水田農家は、1ヘクタール前後の規模で農業にとりくみ、十分でない農業の所得を、農業以外の仕事で補う兼業農家の道を選択してきた。こうした兼業農家は、今、担い手が高齢化し、耕作放棄地が日本国内に増加しつつある。他方で、野菜や果樹、畜産物のように伸びてきた農業がある。限られた土地のもとで、付加価値の高い作物や畜産物を生み出すのが日本農業の強みである。この結果、日本の食料自給率は、カロリーベースで40%、生産額ベースで70%という二極化した姿を見せている。

T P P参加の是非のような論争を教室に持ち込んだ場合、討論は活発になる。そうした授業は、学習者の関心を高めたり、資料を活用できたりという意味で評価される場合が多い。しかし、現実社会には、問題を悩みつつ判断している当事者がいる。学習者が、その当事者と対話しながら問題に気づき、考え続けていく。そうした社会科授業のあり方は、いまだ未解明な点が多い。

今回、私たちは、日本の農業を取り上げ、今後の社会のビジョンを丁寧に考え判断する資質能力を育成する社会科授業のあり方を探してみたい。日本の農業の何をどう学習者に問いかけ、問題の成立を促すのか。これは、社会科学学習において、議論すべき問題を、教師がどう定めていくのか、そう定めた理由は何か、を明らかにし、その意義を相互に検討することを意味する。現実社会の問題に向き合い、その問題を学習に埋め込む社会科授業のあり方を考えてみたい。

司会

佐賀大学 佐長 健司

山形大学 江間 史明

報告者

(1) 社会科における農業学習の歴史的展開と農村の現状

—小学校を中心として—

宮城学院女子大学 佐藤 幸也

(2) 経済的見方からの農業学習の教材開発とその意義

—効率化政策と格差是正策—

日本体育大学 猪瀬 武則

(3) 食農教育における社会科の独自の貢献

—食を主題とした学習の教育内容に関する分類・整理に基づく検討—

上智大学 奈須 正裕

(4) 状況論的学習観からの教材開発とその意義

—「農家緊急家族会議～弟を説得せよ～」の実践を通して—

山形大学附属中学校 関東 朋之

総会 16:15-17:00

221教室

※総会終了後、小白川キャンパスから懇親会会場までのバスがあります。

懇親会 18:00-20:00

ホテル・キャッスル

司会者 岩手大学 今野日出晴
愛知教育大学 土屋 武志

- (1) 「世界(史)の中の日本(史)」をどう構想するか
愛知県立東海商業高等学校 糸井 仁
- (2) 地理と歴史の接続について
- 「地理的条件」と「歴史的背景」の架橋 -
新潟県立新発田高校 竹田 和夫
- (3) 地域素材を通してみる地理歴史融合教材策定の可能性
- 「地歴基礎」導入への視座 -
東洋大学 須賀 忠芳
- (4) 内村鑑三不敬事件を読み返す
帝京大学 野口 剛
- (5) 歴史学の成果と歴史教育の主体性について
- 須賀忠芳氏からの批判を受けて考えたこと -
東京学芸大学 加藤 公明

司会者 白百合女子大学 神永 典郎
早稲田大学 小林 宏己

- (1) 子どもがよりよい社会について考える教材の開発
- これからの「電気の確保」を考える学習をとおして -
渋谷区立笹塚小学校 北川 大樹 多摩市教育委員会 石井 正広
東京都教育庁 秋田 博昭
- (2) 子どもがよりよい社会について考える教材の開発
- 農業の課題に挑戦する人々の姿の学習をとおして -
多摩教育事務所 間嶋 健 さいたま市立中尾小学校 伊藤さおり
日野市立夢が丘小学校 神野 幸隆 日野市教育委員会 長崎 将幸
- (3) 問題解決的な学習の充実
- 小学校社会科で養われる社会的な見方や考え方に着目して -
東京都教育庁 児玉 大祐 大田区教育委員会 木下健太郎
府中市立府中第一小学校 島田 学 葛飾区立花の木小学校 川上 沙織
- (4) 新しい農業学習に関するカリキュラム開発
- 有機栽培に取り組む春野茶 -
板橋区立板橋第十小学校 石橋 昌雄、奥村 菜月、市川 賢治、丸野 陽子、盛 裕史
荒川区立第二峡田小学校 菅原周一郎 立川市立第九小学校 村本 道子
西東京市立向台小学校 野中 哲平 武蔵野市立本宿小学校 萩原 渚

- (5) 小学校社会科における農業学習の意義
 - 「米作り」を中心に - 奈良教育大学 岩本 廣美
- (6) 命と向き合う酪農教育ファーム（蔵王マウンテンファーム山川牧場）の実践
 宮城学院女子大学 佐藤 幸也
 蔵王マウンテンファーム山川牧場 山川 喜市

自由研究発表Ⅱ－第3分科会

213教室（2号館1階）

- 司会者 千葉大学 竹内 裕一
 兵庫教育大学 吉永 裕也
- (1) 思考力・判断力を養うためのGIS（地理情報システム）の利用
 筑波大学大学院 國原幸一朗
- (2) イギリス地理ナショナルカリキュラムにおける地理的基本概念の機能
 宮城教育大学大学院 沓澤 遥
 宮城教育大学 吉田 剛
- (3) イギリス地理教育界におけるケイパビリティ・アプローチ提唱の意味
 - 知識と目標をめぐる議論の展開 -
 上越教育大学 志村 喬
- (4) ドイツ地理教育における空間認識能力の育成
 広島大学大学院 阪上 弘彬
- (5) 社会参加能力育成という観点からみた地理教育の意義と役割
 - 市民性育成のための地理教育を目指して -
 専修大学松戸高等学校・筑波大学大学院 泉 貴久
- (6) モビリティ・マネジメント教育を担う教員の養成・研修体制
 - ドイツ・ニーダーザクセン州を事例として -
 筑波大学大学院 大高 皇

自由研究発表Ⅱ－第4分科会

214教室（2号館1階）

- 司会者 東洋大学 栗原 久
 三重大学 山根 栄次
- (1) 高等学校公民科におけるゲーム理論を応用した授業開発
 新潟県立新潟江南高等学校 田中 一裕
- (2) 経済理解における素朴理論の科学性と非科学性について
 筑波大学大学院 呂 光暁
- (3) 経済リテラシーの向上をめざした中学校公民的分野の学習指導の在り方
 - 経済認識をふまえ、体験と経済概念の形成を結びつけた授業を通して -
 かすみがうら市立千代田中学校 岡野 英輝
- (4) 大学入試問題を活用した経済教育の在り方
 - トリレンマ脱出の道を探る -
 小石川中等教育学校 新井 明 桜修館中等教育学校 高橋 勝也
 千葉西高等学校 杉田 孝之 北見北斗高等学校 山崎 辰也

- (5) コンゴの紛争資源問題と日本の消費者市民教育
 ー高校現代社会での授業実践からー 東京大学大学院 華井 和代
- (6) 消費者市民社会の構築を目指した倫理教育に関する研究
 ー渋沢栄一「経済道德合一説」を事例としてー 帝京大学 魚山 秀介

自由研究発表Ⅱー第5分科会 **121教室 (1号館2階)**

- 司会者
- 兵庫教育大学 原田 智仁
 北海道教育大学釧路校 藤本 将人
- (1) 社会科学習におけるノート指導のあり方 北海道教育大学 田山 修三
- (2) 中学校社会科教育における表現力向上の考察 ー大正デモクラシーを例にしてー
 東洋英和女学院中高部 水谷 悟
 東洋英和女学院大学 坪井 龍太
- (3) 観点別学習状況の評価観に基づき生徒の学力を高める学習指導の在り方
 ー目標・指導・評価の一体化を図ることを通してー 広島大学大学院 池下 誠
- (4) 社会科学習評価への質的研究法Grounded Theory Approachの導入
 ー社会認識形成過程における学習者の診断と処方に関する方法と実際ー
 広島大学大学院 岡田 了祐
- (5) 二つの「リアルな文脈」による真正の評価論
 ーIBに基づいた中学校社会科地理的分野におけるパフォーマンス評価を事例にしてー
 中央大学大学院 津山 直樹
- (6) よりよい社会の形成に参画する生徒の育成Ⅴ
 江東区立辰巳中学校 仲村 秀樹 江戸川区立小松川第二中学校 詰田 剛也
 東京学芸大学附属世田谷中学校 石本 貞衡

自由研究発表Ⅱー第6分科会 **124教室 (1号館2階)**

- 司会者
- 早稲田大学 池 俊介
 横浜国立大学 西脇 保幸
- (1) 東日本大震災の教材化 東京学芸大学附属小金井小学校 小倉 勝登
- (2) ESD (持続発展教育) の視点を取り入れた授業は従来の授業とどう違うのか
 玉川大学大学院 小坂 千明
 玉川大学 寺本 潔
- (3) 地理的分野の学習内容と場所イメージ 山形市立出羽小学校 小口 久智
- (4) 国民としての資質とグローバルな市民性のバランスのとれた育成
 ー義務教育段階における尖閣諸島の授業を通してー
 浜頓別町立浜頓別小学校 橋本 隆生
 安平町立追分中学校 眞所 佳代

- (5) 中国の中学校社会科における国土・領土教育
 -教科書の記述を中心に-

広島県立戸手高等学校 蔡 秋英

自由研究発表Ⅱ 第7分科会

125教室 (1号館2階)

- | | | | |
|---|-----|----------------|----------------|
| | 司会者 | 弘前大学
宮崎大学 | 篠塚 明彦
吉村功太郎 |
| (1) 倫理「日本の思想」へのアプローチ(5)
-中世後期の宗教感覚からみた倫理観の形成について- | | 岐阜県立加納高等学校 | 大橋 弘志 |
| (2) 精神病医斎藤茂吉に見る病者との共生 | | 文京学院大学 | 小泉 博明 |
| (3) 身近な地域の経済活動と環境教育 (17)
-「社会貢献科」の中の環境単元- | | 市川市立第一中学校 | 竹澤 伸一 |
| (4) 間接雇用講師が社会科で労働問題を扱うことについて
-偽装請負の具体的事例を通じて- | | 東京アカデミー | 渡辺 利彦 |
| (5) 政策的思考の育成をはかる授業
-「政策えらび授業」の実践- | | 埼玉県立浦和第一女子高等学校 | 華井 裕隆 |
| (6) 小中高一貫有権者教育のためのプログラム開発の方法
-政策選択学習の原理を応用した単元開発に基づいて- | | 岡山大学 | 桑原 敏典 |

自由研究発表Ⅱ 第8分科会

126教室 (1号館2階)

- | | | | |
|--|-----|--------------|----------------|
| | 司会者 | 筑波大学
岩手大学 | 伊藤 純郎
土屋 直人 |
| (1) 小学校における博物館学習を充実させる教材の開発 | | 常葉大学 | 安藤 雅之 |
| (2) 戦争体験「語り」の継承とアーカイブ
-沖縄の取り組みを事例として- | | 秋田大学 | 外池 智 |
| (3) 歴史教育における倒叙法 -柳田國男に着目して- | | 筑波大学大学院 | 坂田 彩実 |
| (4) 初期社会科「ごっこ遊び」の現代性 | | 流通経済大学経済学部 | 市川 新 |
| (5) 社会科成立期の長野師範学校男子部附属小学校における社会科学習能力研究
-1949年度文部省教科書局実験学校の社会科研究の一端- | | 信州大学 | 篠崎 正典 |
| (6) 昭和戦前期の歴史教育における「実践的学知」の創出と再構築のプロセス
-全国地理歴史訓導協議会での議論を中心にして- | | 愛媛大学 | 福田 喜彦 |

- | | 司会者 | 帝塚山学院大学
信州大学 | 工藤 文三
松本 康 |
|--|-------------------|-----------------|---------------|
| (1) 「社会科は暗記物」という社会科観を変容させるための試み3
－教材ウォッチングを通して－ | | 玉川大学 | 伊東富士雄 |
| (2) 教室外で行う「社会科教育法」の授業実践 | | 慶應義塾大学 | 太田 正行 |
| (3) 小学校教員養成課程における各種資料の連携活用の実践と効果
－縄文時代の埋蔵文化財に関する資料を中心として－ | | 北翔大学短期大学部 | 菊地 達夫 |
| (4) 研究授業で社会科教師は何を見ているのか
－研究授業と研究協議会に関する一考察－ | 神奈川県立平塚農業高等学校初声分校 | | 金子 幹夫 |
| (5) 授業研究・改善の語りの相違
－2012年の公開授業研究会、出版物、学会発表を資料にして－ | | 和歌山大学 | 岩野 清美 |
| (6) 大学院を活用した社会系教員のキャリア発達課題に関する研究
－「理論と実践の統合」課題にどのように取り組んでいるか－ | | 鳴門教育大学 | 西村 公孝 |

課題研究Ⅰ 社会科授業研究における質的研究法を問い直す

2号館211教室

[趣旨] 社会科の授業研究には、質的な授業研究の伝統がある。質的研究とは、「授業の起こっている状況、子どもや教師の発話や行為を精緻にとらえ、その意味を解釈し再構成していくことで授業を理解しようとする」ものである。今日の質的研究からみて社会科の授業研究はどのような特質と課題をもつか、社会科授業研究に対する質的研究の今後の可能性について考えてみたい。

コーディネータ 帝京大学 鎌田 和宏
 大阪教育大学 峯 明秀
 指定討論者 千葉大学 戸田 善治

報告者

- (1) 授業記録を読みあい語り合う社会科の授業研究
 —社会科の初志をつらぬく会（2009年）全国研究集会での提案の経験とその後の実践から—
 東京大学芸大学附属世田谷小学校 岸野 存宏
- (2) 小学校児童の開かれた価値観形成をめざす授業実践の取り組みから
 —第3学年単元「わたしたちのまち、三隅」授業実践を通して—
 浜田市立三隅小学校 紙田 路子

課題研究Ⅱ 社会科の単元終末における表現と思考を問い直す

2号館212教室

[趣旨] 社会科単元の終末の活動は、単元のまとめとして重要な意味を持つ。学習者がそれまでの学習を振り返ったり、まとめとして、レポートづくりや討論など表現したりする活動で終わることが多い。これら単元終末の活動のあり方は、学習者の思考を深める上でも、言語活動の充実をはかる上でも、教師が評価をする上でも課題となっている。単元終末の活動に焦点をあてて、具体例を元にして、教師の指導と学習者の表現や思考の関連について議論したい。

コーディネータ 筑波大学附属小学校 梅澤 真一
 東根市立第一中学校 宗片 史樹
 指定討論者 宮崎大学 吉村功太郎

報告者

- (1) 単元終末における表現と思考
 —社会科教育におけるパフォーマンス評価の取り組み— 西南学院小学校 坂井 清隆
- (2) ワークショップ型授業を通して、終末のふり返りを考える
 —思考の深まりを表現させるための教師の手立てについて— 天童市立第一中学校 松島 久美
- (3) 思考を深め、言語活動を活発化させる終末活動
 —政策論争をしてみよう— 千葉県立千葉工業高等学校 藤井 剛

[趣旨] アジア各国は、国内の社会的課題をどのように確認しようとしているのか。また、各国の社会科教育では、その諸課題をどのように取り扱おうとしているのか。そして、アジア諸国の社会科教育のなかで、共有され、共通のテーマとして設定可能な社会的課題とは何なのか。急速に変化するアジア諸国における社会科教育の基本情報や最新動向をふまえながら、グローバル化や経済状況に伴う問題など、共有される社会的課題を各国の社会科カリキュラムや教科書の分析などを通して、まずは明らかにしていきたい。そして、その社会的課題について、社会科の授業や教材として共有されていく条件や課題を考察しながら、授業化する可能性を検討していきたい。

コーディネータ 帝京大学 中山 京子
立命館大学 森田 真樹
指定討論者 中央大学 森茂 岳雄

- (1) 韓国における多文化的状況と社会科教育－歴史教育を手がかりにして－ 筑波大学 國分 麻里
- (2) 中国の小中学校社会科教育の新しい動向
－社会的課題の取り扱いに着目して－ 広島県立戸手高等学校 蔡 秋英
- (3) シンガポール小学校社会科の新展開
－教育的な営みと国際的な価値付けの強調－ 宮城教育大学 吉田 剛
- (4) 現代カンボジア中学校「道徳公民」「歴史」「地理」の教科書分析 立命館大学 羽谷 沙織

[趣旨] 小学校では「自然災害の防止」が、中学校にも国土の災害や安全、E S Dが導入され、防災の授業づくりが求められている。これを受けて、本課題研究ではこれまでの2年間、教材開発や学校防災計画などとの関係を視野にその教材や方法論について考えてきた。本年も引き続き防災の授業づくりについて教材や方法論を検討するとともに、これまでの成果と課題を考えて見たい。

コーディネータ 弘前大学 篠塚 明彦
早稲田大学 池 俊介

報告者

- (1) 津波防災をテーマにした児童によるハザードマップ作製の試み
－沖縄県の場合－ 玉川大学 寺本 潔
- (2) 社会科教育における防災教育拡充の必要性 福島大学 初澤 敏生
- (3) 東日本大震災前の防災教育と震災後の復興教育－仙台と石巻における実践－
山形大学 村山 良之 東北大学 佐藤 健 神戸大学 桜井 愛子
東北大学 徳山英理子 東北大学 北浦 早苗

[趣旨] 社会科の教員養成にとって教育実習は重要な役割を果たしてきた。しかし、多くの場合、その内容は指導する現場の教員の経験に委ねられてきた。しかも、その指導の内容が公にされ、検討されることは少なかった。社会科の教育実習はいかにあるべきか。その問題点や課題、発展の方向性を探る。

コーディネータ 東京学芸大学 川崎 誠司
 上越教育大学 茨木 智志
 指定討論者 東京学芸大学 加藤 公明

報告者

- (1) 教育実習生が行う小学校社会科実習授業の課題とその改善に関する一考察
 東京学芸大学附属竹早小学校 上野 敬弘
- (2) 歴史認識を深めるための「問い」づくり
 ー高校における教育実習の実態と課題ー
 千葉県立千葉女子高等学校 榎澤 和夫
- (3) 中学校実習における社会科教育実習生の力量形成について
 ー自己省察と協働的省察行為に着目してー
 上越教育大学 釜田 聡

大会参加要項

1 参加費等

- (1) 大会参加費
 - 一般会員：3000円（事前登録）、3500円（当日登録）
 - 学生・院生会員：2500円（事前登録）、3000円（当日登録）
 - 非会員：3500円（事前登録、当日登録とも）
- (2) 懇親会
会員・非会員によらず事前申込4000円、当日申込4500円
- (3) 弁当代（お茶つき）
一日目、二日目とも800円

2 大会参加登録について（締切：9月26日（木曜日））

- (1) 大会への参加は、学会ホームページの第63回全国研究大会（山形大会）をご確認の上、リンクした委託業者ホームページからお申し込みください。

日本社会科教育学会ホームページ <http://socialstudies.jp>

ホームページをご覧になれない方は、近畿日本ツーリスト東北山形支店（Fax：023-625-7351）にご連絡ください。折り返し連絡します。

- (2) 本大会の参加登録事務は、近畿日本ツーリスト東北山形支店に委託しています。
- (3) 宿泊・弁当について、委託業者ホームページで斡旋を行っています。宿泊は、委託業者ホームページの「宿泊ホテルのご案内」をご覧ください。申し込みは、参加登録と同時にできます。
- (4) 委託業者ホームページに記入し、送信したら、登録内容についての確認のメールが自動送信されます。内容をご確認ください。
- (5) 大会参加費、懇親会費、弁当代等の振込期限は、大会参加登録と同じ9月26日です。

【振込先】 銀行名：三菱東京UFJ銀行 支店名：振込第二支店

口座番号：（普）0725608

口座名：近畿日本ツーリスト株式会社（キンキニッポンツーリストカブシキガイシャ）

（注）振込が確認できた時点で事前登録完了とします。業者ホームページからの登録を済ませただけでは、事前登録となりませんのでご注意ください。なお、事前登録された方には当日の『大会論文集』を確保します。当日の混雑緩和のため、できる限り事前登録していただくようお願いします。10月11日（金曜日）までの事前申込のキャンセルは、振込手数料を除いて返金しますので、近畿日本ツーリスト東北山形支店にご連絡ください。

3 会期中の昼食

10月26日土曜日は、大学生協の食堂が営業しています（11:30～13:30）。ただし、席数が少なく、混雑が予想されます。お弁当は、両日ともお茶つきで800円です。正門付近にはコンビニおよびいくつかの飲食店があります。

4 研究発表について

- (1) 研究発表で資料を配布される場合は、自由研究発表は50部、課題研究発表は70部をご用意下さい。なお、発表資料が不足する場合にそなえて若干の余裕の部数をご用意下さいますようお願いいたします。
- (2) プロジェクターは、発表会場に準備します。PCは、各自でお持ち下さい。

5 関連行事（授業公開）

大会前日の10月25日に、学会の関連行事として、山形大学附属中学校を会場に公開授業及び研究協議会を行います。参加は無料です。学会の参加登録にあわせてホームページからお申し込み下さい。（なお、授業公開のみ参加希望の場合は、大会事務局まで、参加についてメールにてご連絡ください）。

6 会場へのアクセス



【J R山形駅から】

- ④ 番乗り場から「県庁前」行きで山形南高校前（山大入口）下車、そこから徒歩8分。
山形駅 → 南高校前（所要10分） 8：15、9：10、10：10、以降毎時10分発。
南高校前 → 山形駅前 仙台から山形駅行き的高速バスに乗車（10～15分間隔）
- ③ 番乗り場から、「東北中央病院（沼の辺）」もしくは「千歳公園待合所」行きで緑町四辻下車。
そこから、徒歩10分。
山形駅 → 緑町四辻（所要20分） 8：39、8：47、9：19

【J R仙台駅から】

J R仙台駅前から②番高速バス（約60分）で山形南高校前（山大入口）下車、そこから徒歩8分。

J R山形駅前から徒歩（約25分）

J R山形駅前からタクシーで、約1200円（所要10分）

7 お問い合わせ

<事前参加登録>・<参加費・弁当・懇親会費の振込>

大会参加登録は、学会ホームページから委託業者ホームページをご覧ください。

不明の点の問い合わせは、下記をお願いします。

近畿日本ツーリスト東北山形支店

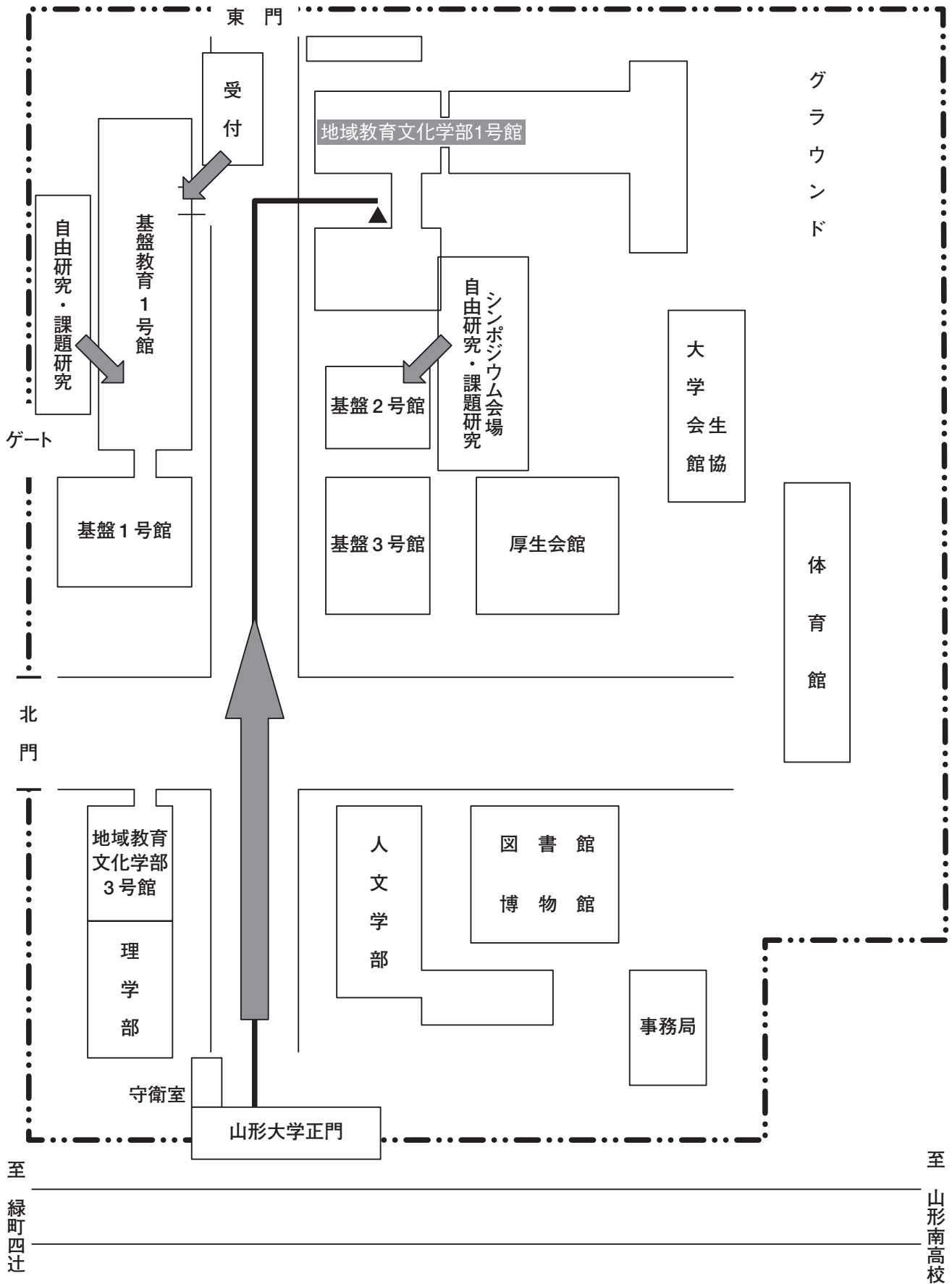
『日本社会科教育学会第63回全国研究大会（山形大会）』担当デスク

メールアドレス：yamagata@or.knt-th.co.jp

電話番号：023-632-3211 Fax：023-625-7351

営業日：月～金 9：00～17：45 休業日：土・日・祝祭日

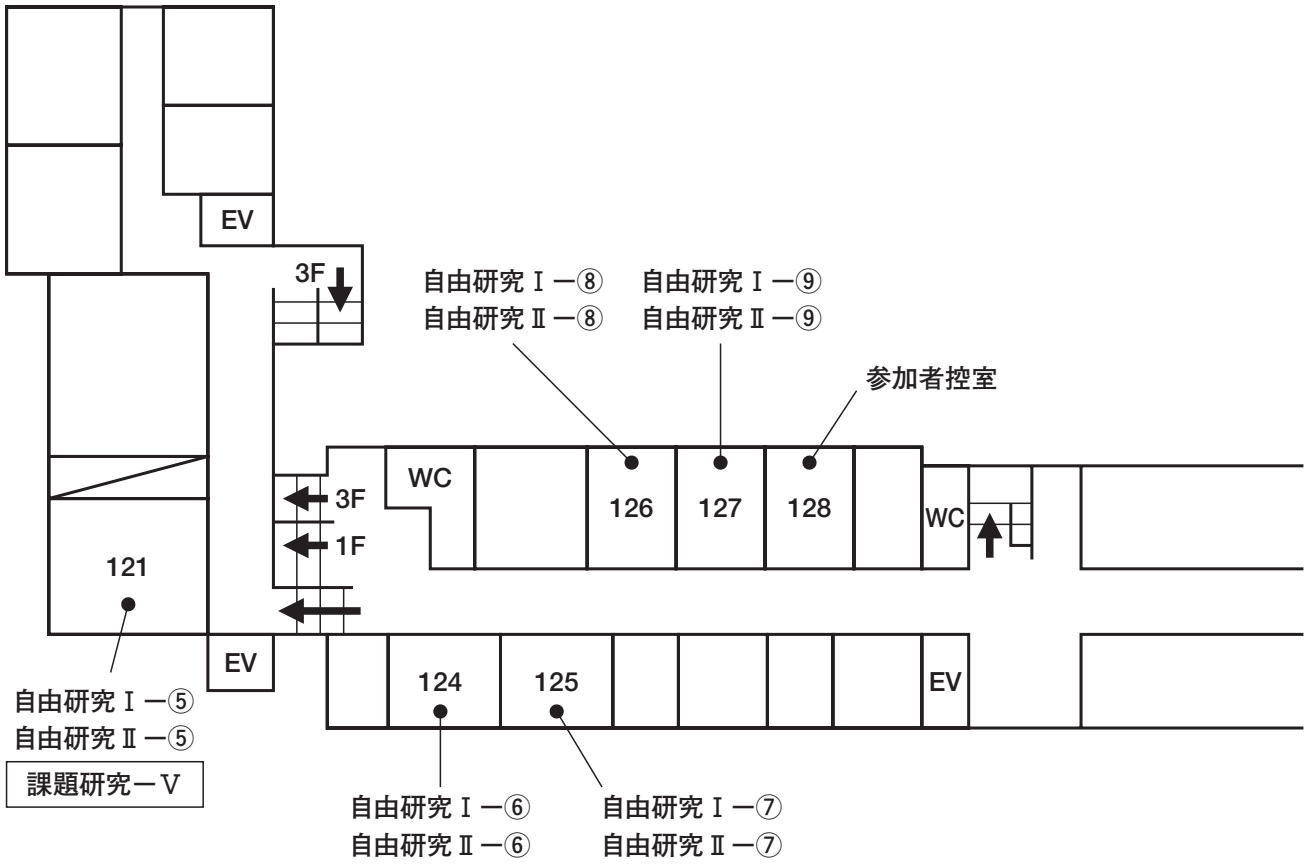
山形大学構内配置図



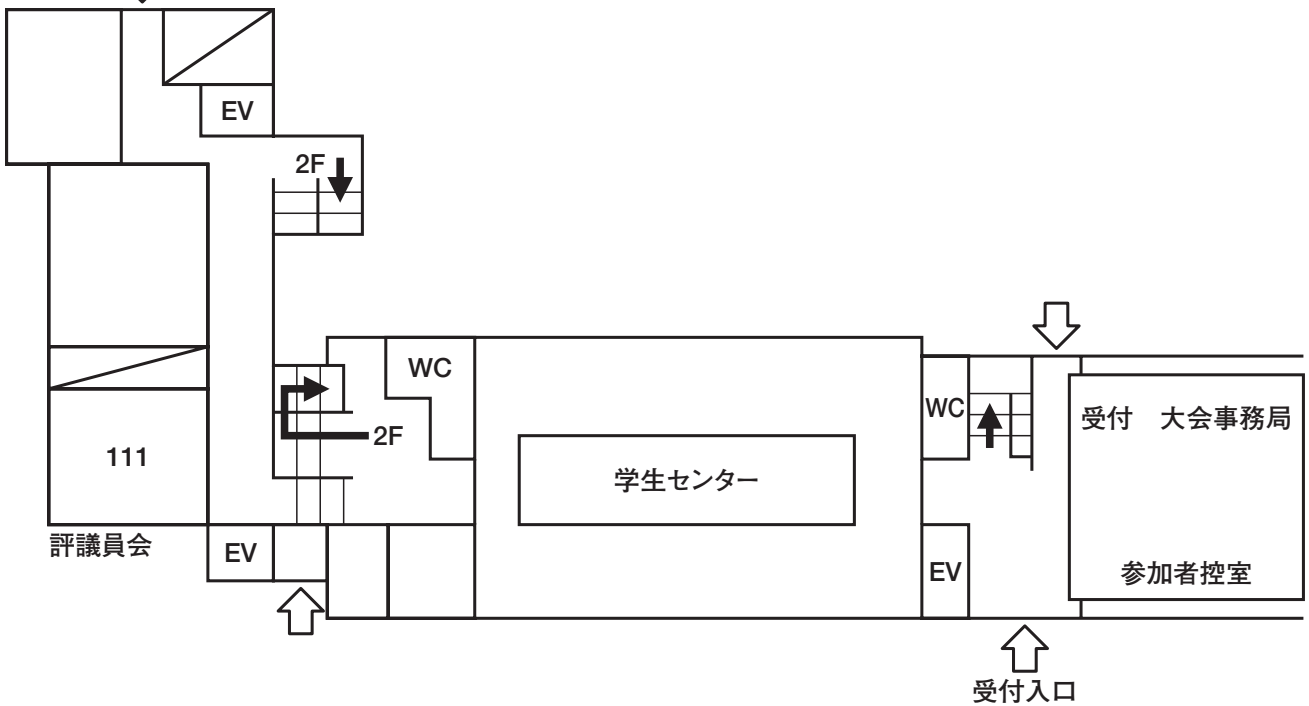
大会会場図

基盤教育 1号館

2階



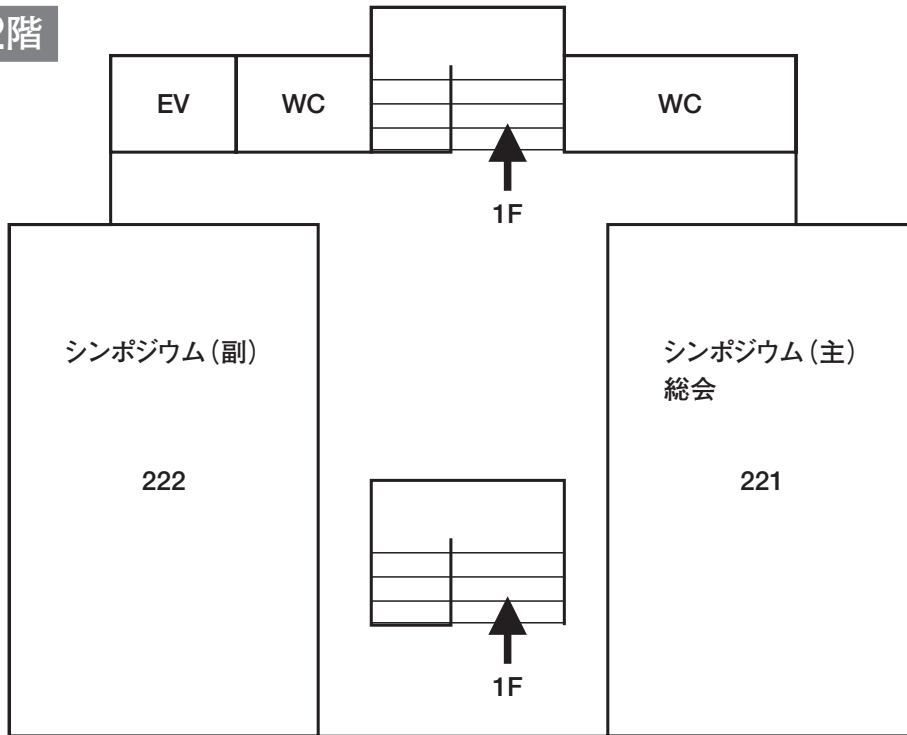
1階



大会会場図

基盤教育 2号館

2階



1階

